

## 大規模ササ刈り試験の実施について

## 1. 試験の目的

森林更新環境の回復のための取組として、更新環境を阻害しているミヤコザサを衰退させることを目的に、大規模なササ刈りを実施した。

また、ミヤコザサはニホンジカの主食となっていることから、大規模にミヤコザサを刈り取り、衰退させることにより、ニホンジカの環境収容力を減少させる効果も期待される。

## 2. 試験区の設置場所

試験区の設置場所は正木峠周辺および三津河内山周辺とし、それぞれ約 1 ha の範囲においてササ刈りを実施し、試験区を設定した（図 1）。

- ① 正木峠試験区【植生：ミヤコザサ草地とトウヒーマヤコザサ型植生の境界部分】（図 2）
- ② 三津河内山試験区【植生：ミヤコザサ草地とブナーミヤコザサ型植生の境界部分】（図 3）

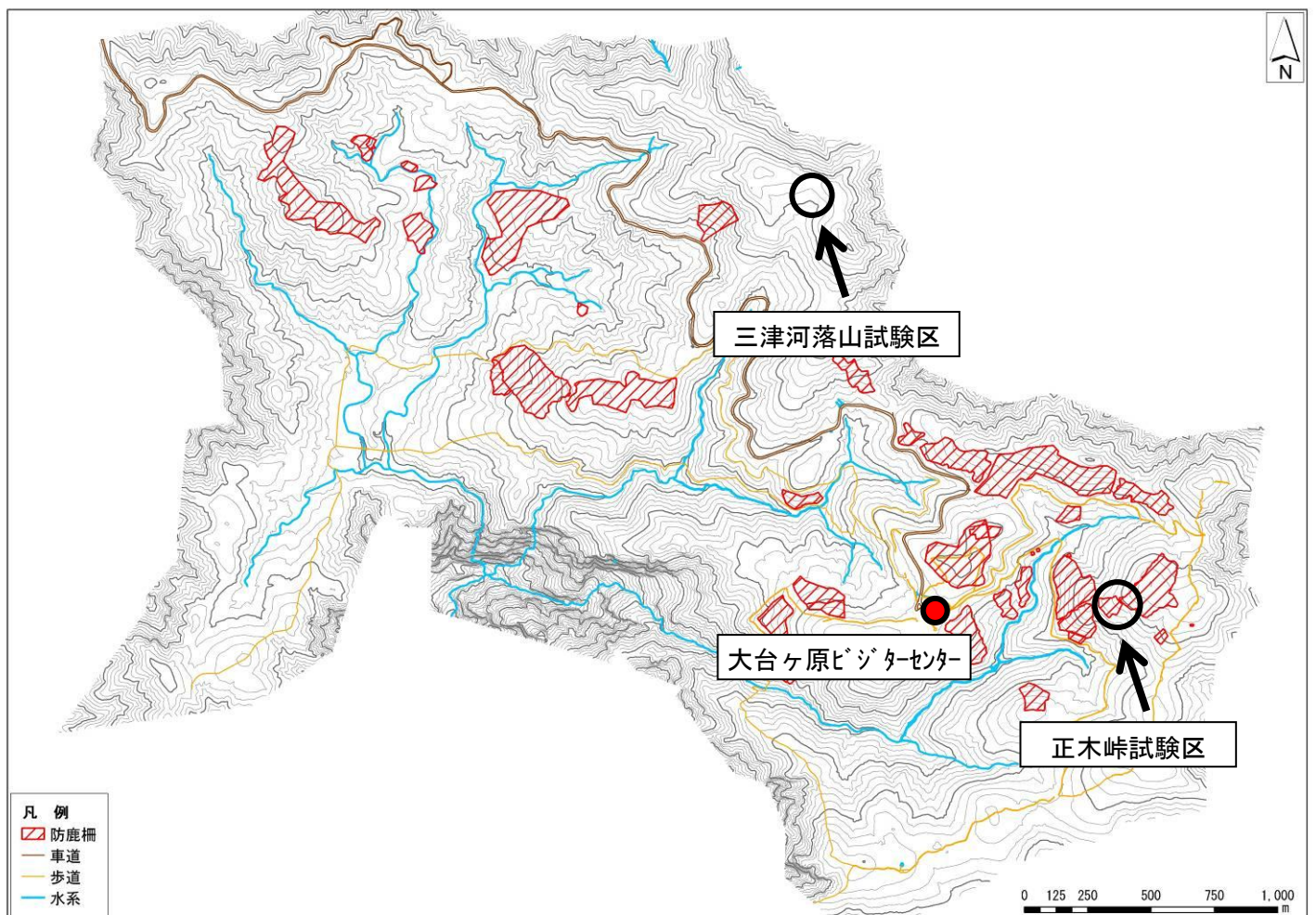


図 1 大規模ササ刈り試験区設定箇所

防鹿柵内外（ニホンジカの食圧の有無）でミヤコザサの衰退状況や植生の変化の比較が行えるように、防鹿柵内と防鹿柵外にそれぞれ試験区を設定した。防鹿柵内の試験区は、正木峠試験区は、既存の防鹿柵 No.5 の一部と No.6 の柵内に設定し、三津河内山試験区については、大規模ササ刈り試験区の東半分（約 0.5ha）に防鹿柵を平成 23 年度に設置する。

### 3. ササ刈り実施結果

平成 22 年 9 月 13～24 日にササ刈りを実施した。また、正木峠試験区の防鹿柵内については、刈り取ったササの集積作業を実施した。

ササ刈りの実施結果は写真 1 に示すとおりである。

ササ刈りに費やした工数は表 1 に示すとおりである。

表 1 ササ刈りに費やした工数

試験区	期間		工数
三津河落山試験区	ササ刈り	2010. 9. 13～2010. 9. 17	17 人日
	ササ集積	ササの背丈が低いいため集積せず	—
正木峠試験区	ササ刈り	2010. 9. 20～2010. 9. 24	12 人日
	ササ集積	2010. 9. 22～2010. 10. 6	12 人日

ササ刈り作業を実施した上での留意事項を以下に示す。

- 稈高の低い箇所でのササ刈り（三津河落山試験区全域、正木峠試験区柵外の一部）
  - ・ 地面や石を刈ってしまうため、すぐに刃が切れなくなる。
  - ・ 慎重に刈る必要があるため、時間がかかる。
- 稈高の高い箇所でのササ刈り（正木峠試験区防鹿柵内）
  - ・ 稈高が高い箇所は、踏圧などによって地面に寝ているササも多いため、刈られずに残るものが多い。そのため、集積作業後にそれらの刈り直しが必要となる。
- 木の根元、枯れ株、枯れ木の周辺、谷（特に岩の多い箇所）のササ刈り（三津河落山試験区全域、正木峠試験区柵外の一部）
  - ・ キックバックしやすいため、非常に危険である。
  - ・ 慎重に刈る必要があるため、時間がかかる。
- 傾斜のゆるやかな場所でのササ刈り（三津河落山試験区の一部）
  - ・ 刈払機は下から上に刈るため平坦な場所では使いにくく、腰など身体に負担がかかる。
- 防鹿柵周辺のササ刈り（正木峠試験区防鹿柵周辺部）
  - ・ 防鹿柵が鉄製なので、接触すると刃こぼれのおそれがあるため慎重になり、時間がかかる。
- 集積作業（正木峠試験区防鹿柵内）
  - ・ 新たに刈った分だけでなく、昔に枯れて積もっている分も集めてしまうため、手間がかかる。
  - ・ 倒木や枯れ株、寝ている笹が邪魔になって、集積しにくい箇所が多い。
  - ・ 集積の際、植生を傷める（苔や実生、稚樹）。



写真1 ササ刈り実施結果

正木峠試験区（防鹿柵内）	
ササ刈り実施前（2010. 9. 20）	ササ刈り実施後（2010. 9. 24）
	
正木峠試験区（防鹿柵外）	
ササ刈り実施前（2010. 9. 20）	ササ刈り実施後（2010. 9. 24）
	
三津河落山試験区	
ササ刈り実施前（2010. 9. 13）	ササ刈り実施後（2010. 9. 17）
	

#### 4. モニタリング

##### (1) モニタリングの目的

大規模ササ刈りによるミヤコザサの衰退と植生の変化およびニホンジカの生息密度の変化を把握することを目的として実施する。また、大規模ササ刈りにより、土壌流出等の影響も考えられることから、土壌流出を把握するためのモニタリングについても今年度手法を検討し実施する。

##### (2) 植生に関するモニタリング

大規模ササ刈り試験の実施によるミヤコザサの衰退状況や植生の変化を把握するために、植生調査を実施する。調査手法は、大きさ2m×2mの植生調査区を防鹿柵内外に設置し、調査区内の下層植生の種別の被度(%)および最大高を記録する。試験区別の植生調査区の設置数は表1に示すとおりである。

表1 試験区別の植生調査区設置数

試験区	柵内※		柵外	
	疎林部	ササ地	疎林部	ササ地
正木峠試験区	3	—	3	—
三津河落山試験区	3	3	3	3

※三津河落山試験区については、柵内予定地に植生調査区を設置する

調査の実施時期は、以下のとおりである。

- ・ 平成22年度  
初期値調査(ササ刈り前)(9月実施済)  
モニタリング調査2回(10月、11月)
- ・ 平成23年度以降  
モニタリング調査1回(9~10月)

##### (3) ニホンジカ生息密度に関するモニタリング

大規模ササ刈り試験の実施により、ニホンジカの個体数密度が変化することが期待されることから、大台ヶ原の他地域との比較ができるように緊急対策地区における生息密度調査(糞粒調査)と同時に同手法で実施する。

調査手法は10月に1回ニホンジカの糞粒数をカウントする。

##### (4) 土壌流出に関するモニタリング

大規模ササ刈り試験地における土壌流出量を把握する調査について、今年度実施内容を検討し、平成23年度以降調査を実施する。

#### 5. ササ刈りの頻度

ササ刈りの頻度については、来年度以降、年1回9月に実施する。



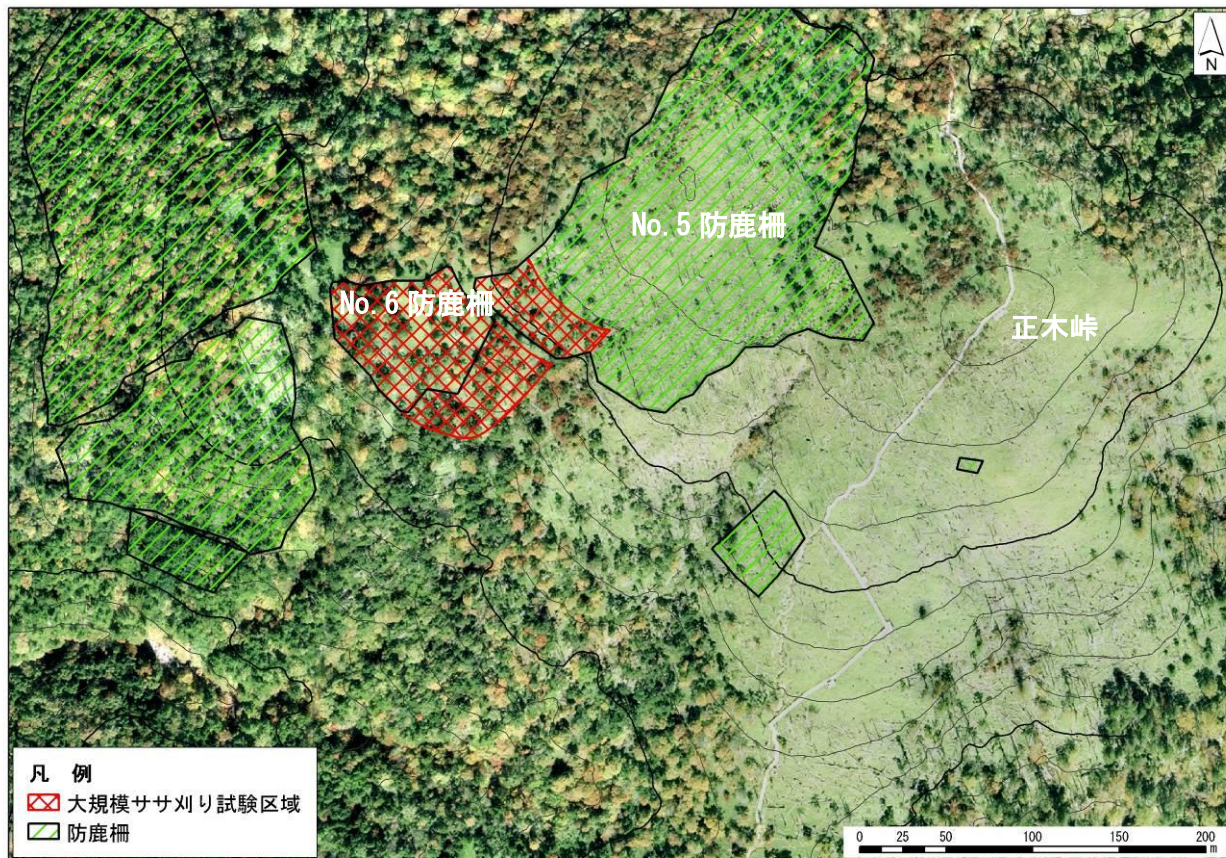


図2 大規模ササ刈り試験区設置場所（正木峠試験区）

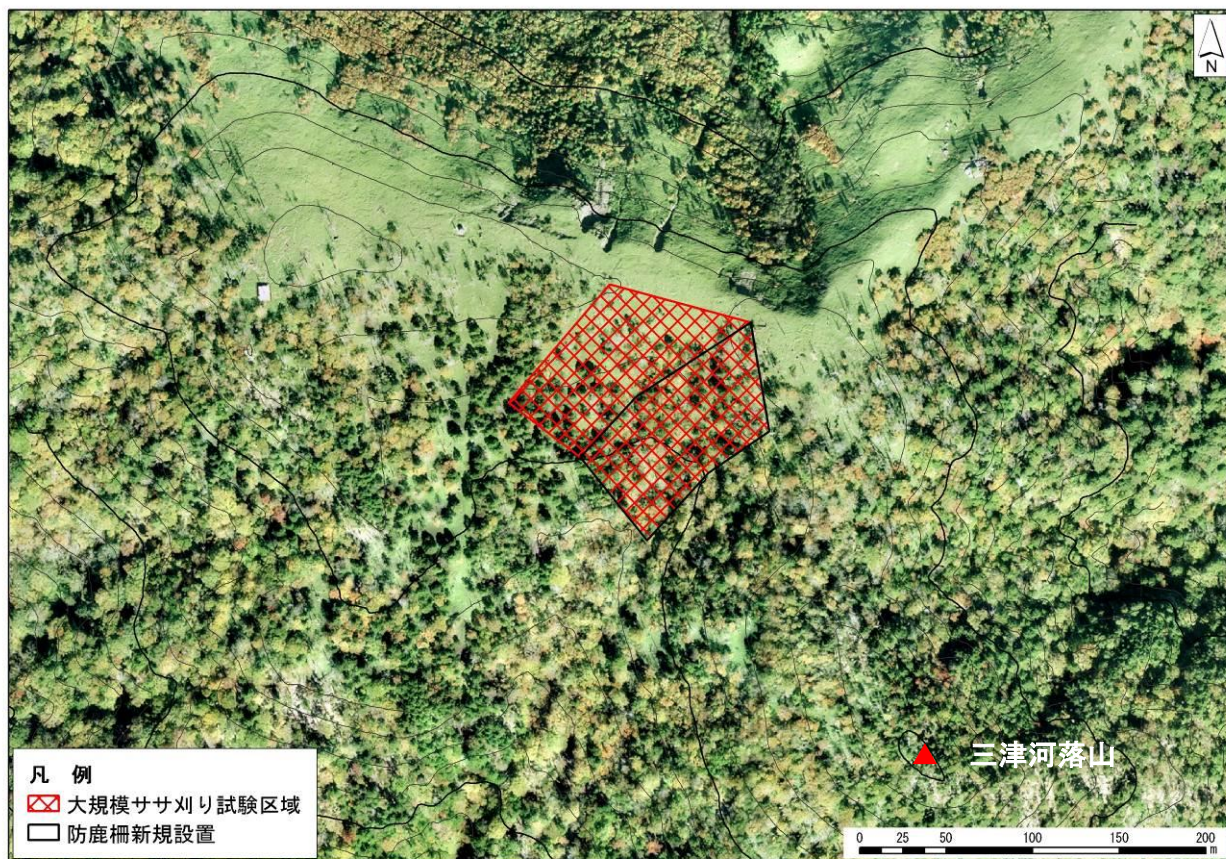


図3 大規模ササ刈り試験区設置場所（三津河落山試験区）